



緑の園

6月号

ヒルトップハイツ

グリーンプラザ



デイサービスセンター

だより



第60号

令和3年6月1日発行

Rainbow/Difficult To Cure(1981)



## ワクチン接種は予定通りに進んでいます。

先月の17日(月)から始まりました新型コロナウイルスの予防接種は当初の心配をよそに順調に進んでおります。

特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツでは先月の31日(月)に接種を希望された方々の1回目の接種が完了いたしました。

同じく特別養護老人ホームグリーンプラザでは27日(木)に1回目の接種が完了いたしました。

養護老人ホーム緑の園につきましては今月の4日(金)に全ての希望者の1回目の接種が完了する予定となっております。

そのあと順次2回目の接種に移り今月中にはすべての利用者さんの接種が終了する予定です。

2回目の接種が完了したからといってすべての制限が一斉に解除されることはありませんが感染に対する恐怖感は随分和らぎます。

さて、そんな中先月の16日(日)から北海道において2回目の緊急事態宣言が発令されました。

宣言期間中の5月末感染者数は減ることなく、寧ろ増加するばかりか身近に感染が迫ってきているようで今まで以上に緊張感が高まっています。

特に最近は小さなお子さんの感染が目立ちとても心



配で心が痛みます。

変異ウイルスはもとよりここまで感染が拡大し身近に迫ってきていることへの「不安や恐れ」を強く感じております。

この「不安や恐れ」の感情そのものは「自分を守る」ための感情なのでいわば本能的なものなのですが、残念ながら行き過ぎた「不安・恐れ」の感情は特定の人を日常生活から遠ざけたり差別するなど、何かにつけ感染症に結びつけ悪い情報ばかりに目を向けがちになります。

少し前にはワクチン接種に関して「副反応」ばかりが注目され、ワクチン接種に否定的だった方が少なからずいたかと思いますが、今ではワクチン接種が進まない状況への不満やいらだちの声のほうが大きいように感じます。

悪いけど今のマスコミの情報の流し方は不安をあおっているようにしか個人的には思えません。

注意喚起のために感染したつらさを発信している方たちをねぎらい・守っていく姿勢や態度こそ今



の私たちに求められていることなのだと思います。

ワクチン接種が希望する人すべての人たちに行き届くまでまだまだ時間はかかりそうです。

ワクチンを接種しても実際の社会で効果が確認されるまでには時間がかかるのでしょうから当面の間は**手洗い・マスク・換気、そして密閉空間・密集場所・密接場面の回避**を徹底することは今までと変わらず必要とされます。

新型コロナウイルスとの戦いはまだまだ続きます。

「不便」な生活は続きますが「不便」は「不幸」ではありませんし、「不安」な感情だってまっとうなものです。

ただ、**嫌悪・偏見・差別は絶対にダメ**です。

残念ながら緊急事態宣言は今月20日まで期間が延長されることとなりました。(おばら)

## 第1回 理事会が 開催されました。



先月の28日(金)に社会福祉法人 丸瀬布社会福祉協会第1回理事会が開催される予定でしたが、北海道における緊急事態宣言が発令されている期間と重なったため書面での決議となりました。

## お母さんありがとう! カーネーションのプレゼント。



先月、ヒルトップハイツ、そしてグリーンラザのおかあさんにそれぞれの施設からカーネーションの花がプレゼントされました。

皆さんにここにとてもいい笑顔でした。

## 6月10日は時の記念日です。

6月は農事がすべて済んだので「みなし月」、日照りが続いて熱いので「水無し月」、稲の稲の実がふくらむ時期の「実の成り月」が「みな月」になったなどの説があるそうです。



さて、緑の園ならびにグリーンプラザにおける介護理念は「笑顔のために気持ちをひとつに」です。

カッコよく言うと私たち職員のミッションは利用者さんが「笑顔」になってもらうことです。

それぞれの持ち場(職種)で「なすべきことをなす」ことが私たちの仕事であり、「誰かの役に立つ」仕事です。

悔しい話ですが新型コロナウイルスだって変化して生き延びようとしています。

私たちは残念ながら現状の不満はたらたら言いますが「今まではこうやってきたから…」と拒み、できない・やらない理由ばかりを探しています。



やっぱり現実の状況を変えるための行動をとらない限り今まで通り日々の業務に追われっぱなしのままです。

変化は何もしなければ「脅威」となりますが、変化を「日常」とすればそれは「機会」ともなりまた、「成長」と言い換えることも可能です。

ってことを先月の会議で職員と話しました。そんなことを言っている私ですが、以前の職場で**寒い**おやしギャグを多用し失笑の中お話をしましたら、開設当初からの職員に「まだ、そのネタ使っているの!?しょーもない」と一蹴され30年間何も変わっていない私を痛感いたしました。

時の記念日には関係ないお話でごめんなさい。(おばら)